

環境影響評価審査会風力発電所部会議事録

- 1 日時：平成 20 年 9 月 19 日（金）14:00～17:00
- 2 場所：神戸市教育会館 5 階 501 号室
- 3 議題：淡路北部風力発電事業（仮称）に係る環境影響評価準備書の審査について
- 4 出席委員：北村部会長、朝日委員、大迫委員、澤木委員、田中眞吾委員、辻委員、山口会長
- 5 兵庫県：環境管理局長
環境影響評価室長、審査係長他係員 2 名
景観形成室、大気課、水質課、淡路県民局
- 6 関係市：淡路市
- 7 配布資料
 - ・会議次第
 - ・出席者名簿
 - ・淡路北部風力発電事業（仮称）に係る環境影響評価準備書
 - ・資料 1）環境影響評価審査会風力発電所部会（第 4 回）議事録
 - ・資料 2）答申案
 - ・資料 3）淡路北部風力発電事業（仮称）準備書に係る意見等について
- 8 議事概要

事務局が資料 2，3 により答申案について説明。

以下、答申案中 3 動物（鳥類）についての議論があった。

（委員）第 3 パラグラフの「バードストライクのおそれに対して、次のような対策」の「次の」は、(1) (2) (3) のことを指しているのか。下の文章の「また、信頼性の確保から・・・」のことを指しているとの誤解を招くので、「下記の」に訂正してはどうか。

（事務局）指摘を踏まえ、文言を修正する。

（委員）ヒヨドリは多い場合には数千羽の群れで渡るケースがある。また、飛翔高度もちょうど風車の高さである。(3) 「施設供用後には、タカの渡りに関する情報網から」とあるが、この書き振りではタカに限られることになるので、渡りを行うヒヨドリについても考慮するべきである。タカ等にしてはどうか。

（事務局）「施設供用後には、タカ等の渡りに関する情報網から」と修正する。

（委員）第 1 パラグラフには「タカ類」と記載されているが、これでよいのか。

（委員）タカ類とするとタカの仲間だけに限られる。タカ等と修正してはどうか。

（委員）第 1 パラグラフの「タカ類」については、事業者が、準備書に記載している内容について記載している箇所であるので、「タカ類」のままでよいと考える。

（委員）他にも第 2 パラグラフの「タカの渡り」や (1) の「タカの渡り」と書かれている箇所がある。タカ類なのか、タカ等なのか、鳥類とするべきなのか、使い分けがよくわからない。また、第 1 パラグラフの「タカ類」については、現状のままでよいとして、第 2 パラグラフの「タカ」という記載は変更するべきか。

（事務局）渡りのルートでのバードストライクの状況に関して提出された資料では、

「タカ」又は「タカ類」となっているが、第2パラグラフの「タカ」は、第1パラグラフに合わせ「タカ類」と修正することで良いか。

(委員) 他の鳥も含めた方が観察しやすいと思う。種類を特定することの方が逆に難しい。よって(1)(2)(3)については「タカ」に限定しない方がよいと思う。

(委員) タカだけでなく他の鳥類のバードストライクも考えられるので、他の鳥類についても含んだ記載にするべきである。

(委員) 「タカ」の後に説明書きを入れてはどうか。

(委員) 渡り鳥の種類はどのくらいあるのか。

(委員) 留鳥と呼ばれる鳥もその一部が季節移動をすることがわかっているので、はっきり何種とは言えない。

(委員) 渡りとは一体何なのかということになる。

(委員) バードストライクの発生の有無についての調査の対象は、事業者はタカ類のみか、それとも他の鳥類も含んでいるのか。

(委員) バードストライクの発生の有無を調べるという前提であるので、タカ以外も含んでいると考えている。

(委員) 鳥類の渡りについては、少し曖昧なところがあり、全ての鳥は移動や分散を行い、季節的にそういう移動がなされると渡りと言われている。私が事業者に求めた365日のバードストライク調査は、明らかな渡りのシーズン以外にも鳥が動くのは確かなことであるので、その影響の大きさが不明なことから提案したものである。

(1)(2)(3)に記載されている対策に関して、タカ以外の鳥類についてそれほど深く議論していないが、希少性があるということでタカがクローズアップされているだけで、渡りについては当然他の鳥も行うものである。全ての渡りや移動について、こういった対策を実施するべきである。例えばヒヨドリが100羽、200羽死ぬという事態になれば、それは問題である。主となるのはタカであるとしても、全ての鳥類が含まれるような文章にしていきたい。タカにだけ対策を実施すればよいとするのは適切ではない。

(委員) 対象をタカ類とするのか、それとも全ての鳥類とするのかということも含めて調査会で議論するということがか。

(委員) 調査会で議論するのではなく、対策の対象をタカだけでなく他の鳥類も含むように答申の中で明記した方がよい。

(事務局) 例えば(3)については、「施設供用後には、タカ等の渡りに関する情報網から渡りに関する情報」と修正することで良いか。

(委員) タカ類、具体的にはサシバだが、春期と秋期の渡りでは向きが逆である。また、春期の渡りはバラバラなので、これを把握するのは大変なことである。せっかく調査会を作るのだから、現地の様子を踏まえ、調査会で決めればよいと思う。データがない状態で、今この場で議論しても仕方がないのではないか。

(3)の内容は調査会で協議することにしてはどうか。つまり(3)自体が不要ではないか。

(委員) 先程の議論では、(1)(2)(3)の対策について、対象をタカだけにする

のではなく、他の鳥類についても含むように答申の中で「タカ等」と記載する方向になったが、(3)が不要となると(1)(2)も消去することになってしまう。

(委員)「供用当初においては、渡りのピーク時には風力発電設備を停止して回避行動を確認し」とあるが、風車を停止してどのようにして回避行動を確認するのか。また、具体的に渡りのピークとはいつなのか。「渡りのピーク時には風力発電設備を停止して回避行動を確認し」との記載に関して、回避行動とは一体どういうものなのか。風車が動いてないときに回避した場合、「その結果を踏まえて、その後の対策を行う」とあるが、あまり意味がないのではないか。

(事務局) 構造物が出来上がっている状態なので、全くない状態と比較はできるのではないか。渡りのピークについては、事業者見解では、タカの渡りのネットワークの情報をもとに推定するとしている。

(委員) 設備を停止することは、事業を行う上で非常に辛いことである。サシバ等の渡りに関して、ピーク時がいつかはっきりしないのに、また、回避行動がどういふものが明確でないのに、その間、設備を停止させるのはいかがなものか。

(委員)(3)について、供用当初に限らず、バードストライクによる影響が大きいと判断されれば稼働の停止も行う内容にしてはどうか。

(委員) 停止するかしないかの判断は調査会で議論するべきである。それでないと調査会の意味がない。

(委員)(1)(2)(3)には基本的な考え方を記載するのが良いと思う。調査会では、それ以外の詳細な事項について、より具体的に議論されるものと考えている。バードストライクの調査頻度については答申に明記するべきでしょうか。

(事務局) バードストライクの調査頻度については、事業者の見解書に記載されているが、答申に頻度を明記すると、調査結果や調査会の意見を反映しにくいのではないか。

(委員) 停止しているときに回避しているかどうかの議論が出ていたが、停止しているときブレード面を通過すると、それは回避していないことになるのか。そういったケースは多くなると思う。稼働させながら確認してはどうか。

(委員) 稼働させながら調査をするのは適切ではないのではないかと。1年目は停止した状態で調査し、2年目以降に稼働させた状態で調査すればよいのではないかと。

(委員) 渡りのピーク時において風車を停止し、回避行動が確認された場合でも稼働させないのか。ピーク時であっても、回避行動が確認されれば停止する必要はないのではないかと。

(事務局) 事業者見解では、施設供用後の予防策として、1年目の渡りのピーク日の日中は風力発電設備を停止し、回避行動を確認しながら慎重に順次運転を開始するとしている。ピーク時以外での停止していない状況での回避行動も含めて、調査会において総合的に検討することが可能ではないかと。

(委員) 第3パラグラフに、「予防的見地から、バードストライクのおそれに対して、次のような対策や調査を行う必要がある。」との記載がある。ここでの予防的見地とは、一旦風車を停止して危険を回避し、少しずつ順応的に稼働を行って

くという意味ではないか。

(委員)「渡りのピーク時には風力発電設備を停止して回避行動を確認し、この結果を踏まえて、その後の渡りのピーク時における稼働又は対策を行うこと。」とあるが、影響が大きければ対策を行うという理解でよいか。対策というのは停止を含んでいるのか。私はバードストライクが起こるだろうと考えている。今の文言だと悪い影響が出たとしても停止せずに稼働を行うかのように読める。また、供用当初だけでなく、渡りの時期についてはずっと停止することが望ましいと考える。

(委員)対策とは停止しかないのではないか。

(事務局)「稼働の可否も含めて対策を行うこと。」と修正することで良いか。

(委員)「また、信頼性の観点から」とあるが、何についての信頼性確保なのかがわからないので誤解を招く可能性がある。今は信頼性がないということなのか。別の言葉があるのではないか。

(事務局)「また、対策等の実効性確保の観点から」と修正することで良いか。また、先程の回避行動の確認等については、「供用当初においては、渡りのピーク時には風力発電設備を停止するとともに、回避行動を確認しつつ」と修正することで良いか。

(答申案について了承された。)

以上